

### 平成 27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷村ヒルクライムプロジェクト
事業主体 (連絡先)	小谷村 (観光振興課特産推進室 新井東珠 TEL:0261-82-2589 FAX:0261-82-2232)
事業区分	(6)ア 特色ある観光地づくり ・ (1)地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,759,595 円 (うち支援金:1,198,000 円)

#### 事業内容

北アルプスと頸城山塊の谷間に位置する小谷村の山岳地形を活用し、全て完走すると富士山の標高 3776m を越えるというチャレンジな自転車のヒルクライムコースを整備。1 日では走りきれない規模で展開し、宿泊およびリピーターを狙う。

- ・自転車愛好者を中心とした組織作り
- ・道標や案内看板、サイクルラック等の設置によるモデルコース2本の整備(梅池自然園および小谷温泉コース)
- ・プロジェクト紹介チラシやサイクリングマップの作成および配布による情報発信
- ・コースお披露目の試走会イベント (10月17~18日)の開催による広報宣伝



【お披露目試走会イベントの様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 現在、白馬山麓エリアでは自転車イベントや大会、インバウンド向けのガイドツアーによる誘客が活発化している流れの中で、ヒルクライムというジャンルに特化したことにより、小谷の持つ個性を磨き、発信することができた。
- ② 新たな観光の切り口・話題となり、スキー、登山とはまた別の層にアプローチすることができた。近隣市町村や都市部からの訪問者や取材が増えた。
- ③ 地域の合意形成の過程で、自転車愛好家やガイドはもとより、かつて自転車に乗っていた人、自転車店を営んでいた人、大会を運営した人などを発掘することができ、協力を得られた。

#### 【目標・ねらい】

- ① 地域の新しい魅力づくり
- ② 観光・交流人口の増加
- ③ 村内の自転車関係者ネットワーク作り

#### ※自己評価【 A 】

##### 【理由】

道標設置には想定以上に多数の許認可が必要と判明し取得に時間がかかったが、その分多くの人を巻き込み、結果としては近隣市町村にまで連携が広がったため。

#### 今後の取り組み

H28 年度にはコースを 6 本増設し、村内全域にコースを整備するとともに、メカトラブルなどの緊急対応や休憩施設(サイクルステーション)などの受入体制を整える。また、新たに初心者やファミリー層にも楽しめるように電動アシスト自転車のレンタル事業を開始する。同時にウェブページやメディア出稿などを通じた広報宣伝活動も本格化させ、自転車文化の醸成による担い手の育成も行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある